

次世代の子どもを育てる3つの提案

～新しい社会と子育て 2011～

野田俊作



4歳の女の子

歯磨きをすると、「ねえねえ、見て見て」と、
何度も何度も見せにくる。

従来の対応



1. 「はいはい、きれいになったね」と誉める。
2. しつこいと「わかったわよ!」と叱る。

小学校2年生の男の子



朝、犬と遊んでいて、なかなか出かかず、結局、遅刻ギリギリになってようやく出かける。

従来への対応

1. 「早く行きなさい」と叱る。
2. むりやり連れ出す。

小学校5年生の男の子

ゲームに夢中になって勉強しない。

従来への対応

1. 勉強するように叱る。
2. ゲームをする時間を制限しようと話し合う。
3. ゲームを取りあげる。



4歳の女の子

歯磨きをすると、「ねえねえ、見て見て」と、何度も何度も見せにくる。



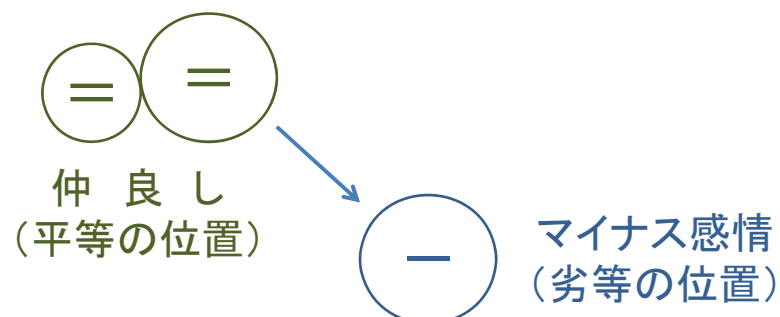
従来への対応

1. 「はいはい、きれいになったね」と誉める。
2. しつこいと「わかったわよ！」と叱る。

ストップして観察する

私の感情はプラスかマイナスか？

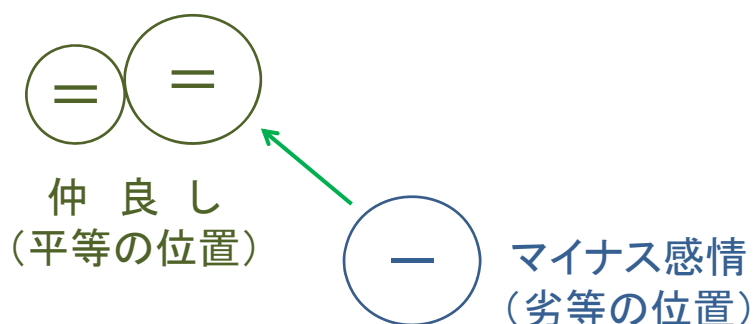
マイナス感情とは、怒り・不安・後悔など



マイナス感情があるときは

話し合いのチャンスではない

→「仲良し」であることを思い出す



起こっていることを理解する

子どもは何を求めているのでしょうか？

親の感情が「誉めてあげたい。

でも面倒くさい」という感じだと

→賞賛を求めているのかも

なぜしつこく賞賛を求めるのか？

→「誉める」育児の副作用かな？

行為を誉める

→人格を愛する

たとえば

- いいことをしたときに誉めるのではなく
普段からたくさんかわいがる
- いいことをしたときには
 「えらいね」などと
 子どもの行為を評価せず
「嬉しそうね」とか
「気持ちよさそうね」とかいうように
子どもと喜びを共有する

提案1：「ほめる」から「尊敬する」へ

- 行為ではなく人格とつながる
- 裁判官にならない
 いいことをしているからいい子？
 悪いことをしているから悪い子？
- いつも仲間にいる
 悲しんでおれば「悲しそうね」
 子どもが喜んでおれば「嬉しそうね」
 そう言った上でゆっくり話を聞く。

小学校2年生の男の子

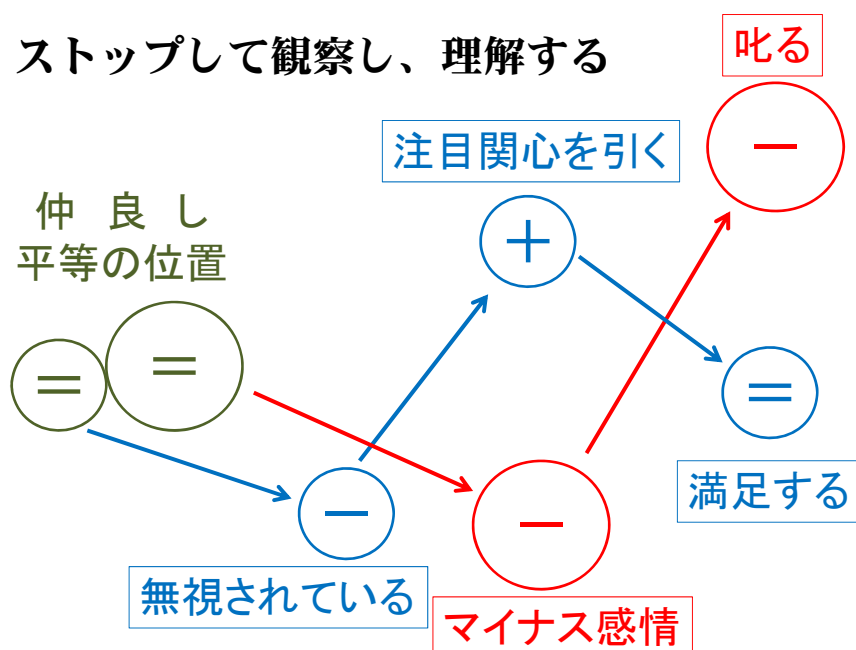


朝、犬と遊んでいて、なかなか出かかず、結局、遅刻ギリギリになってようやく出かける。

従来への対応

1. 「早く行きなさい」と叱る。
2. むりやり連れ出す。

ストップして観察し、理解する



起きていることを理解する

子どもは何を求めているのでしょうか？

親の感情が「イライラする」という感じだと

→注目関心を求めているのかも

なぜ注目関心を求めるのか？

→「叱る」育児の副作用かな？

不適切な行為を叱る

→適切な行為を喜ぶ

たとえば

• 悪いことをしたときに叱るのでなく

普段からたくさんかわいがる

子どもにまかせて結末を体験させる

• いいことをしたときには

「えらいね」などと

子どもの行為を評価せず

「嬉しそうね」とか

「気持ちよさそうね」とかいうように

子どもと喜びを共有する

提案2：「叱る」から「信頼する」へ

- 子どもの問題解決能力を信じる
- 失敗から学ぶことも大切
 - うまくいったと思う？
 - どうすればよかったと思う？
 - これからどうしようと思う？
- 子どもの仲間にいる
 - なにか私に手伝えることはある？

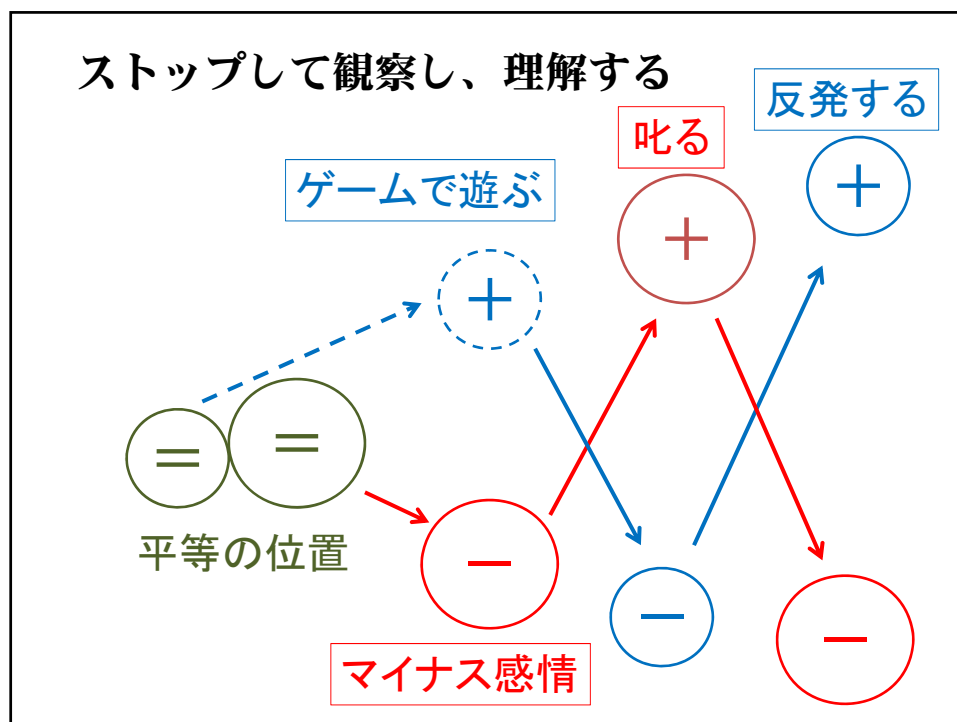
小学校5年生の男の子

ゲームに夢中になって勉強しない。

従来の対応

1. 勉強するように叱る。
2. ゲームをする時間を制限しようと話し合う。
3. ゲームを取りあげる。





起こっていることを理解する

子どもは何を求めているのでしょうか？

親の感情が「喧嘩を売られた」という感じだと

→権力争いを求めているのかも

なぜ権力争いを求めるのか？

→親子が同じ精神発達レベル？

喧嘩を買う

→戦わない、譲らない

権力争いのルール

- どちらが上、どちらが下か
- どちらが正しく、どちらが間違っているか
- どちらが勝ち、どちらが負けか

を、陰性感情をぶつけ合って決める。

普通、決着はつかず、
双方が疲れ果てて終わる。

たとえば

- 喧嘩を買うのではなく
 - 普段からたくさんかわいがる
 - 冷静に話し合う力をつける
 - 子どもの考えをじゅうぶんに聞く
 - 親は意見は言うが強制しない
 - 子どもにまかせて結末を体験させる
- 大人になろう
 - 子どもとおなじレベルで喧嘩しない

提案3：勝ち負けから降りる

- 勝っても負けてもいいことはなにひとつない
- いますぐに決めなければならないことはない
陰性感情のあるときは話し合いの時ではない
落ち着いてから話をするにすればいい
- 葛藤は子ども時代に覚えた悪癖
子どもだけでなく大人も子どもになっている
大人と大人としてのつき合い方を学ぼう

ここでちょっと休憩



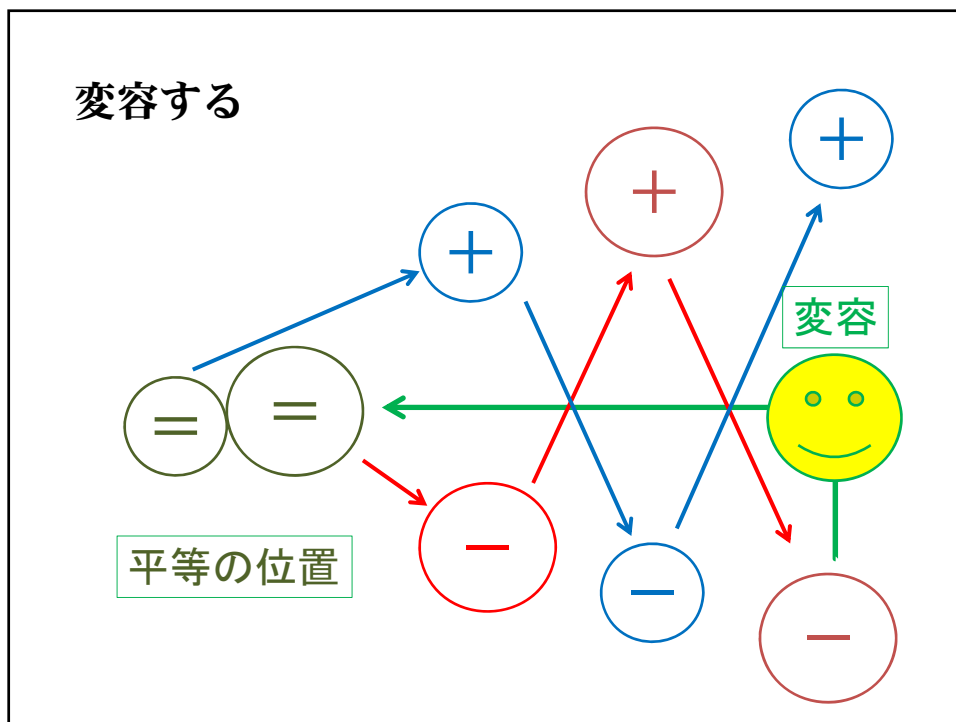
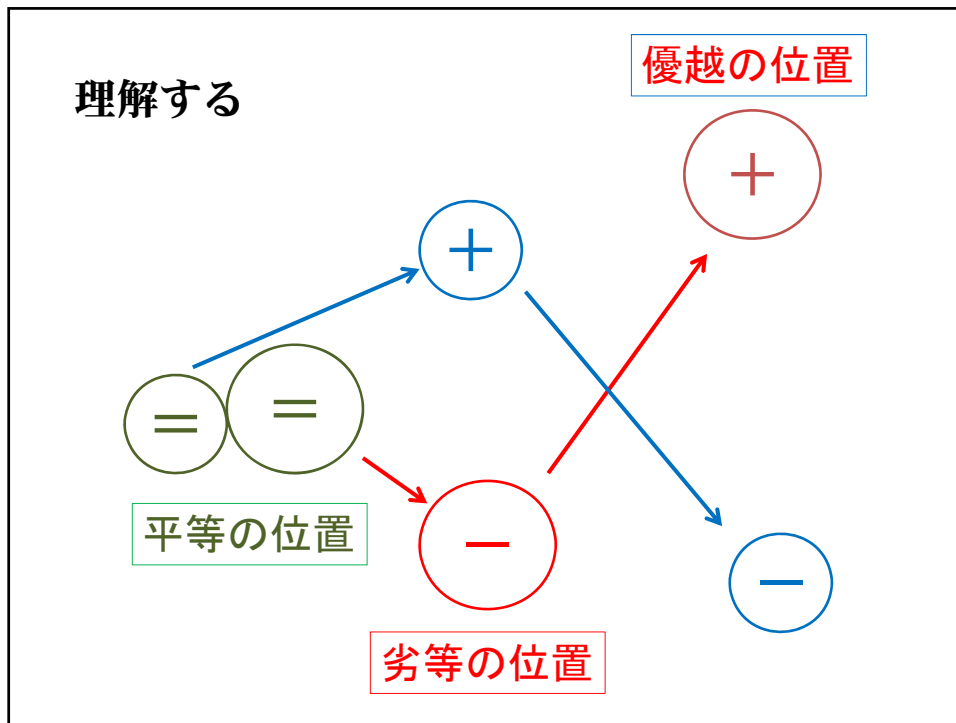
<http://jalsha.cside8.com>

5段階の葛藤

0. 賞賛を求める：しつこいと面倒くさい
1. 注目関心を引く：イライラする
2. 権力争い：怒り。喧嘩を買いたくなる
3. 復讐する：傷つく。暗い気持ち
4. 無能力を誇示する：見捨てたくなる

葛藤解決の5段階

0. ストップ：なにはともあれ止まる
1. 観察する：自分の感情を観察する
2. 理解する：仕組みを理解する
3. 変容する：基本的な構え方を変える
4. 行動する：新しい構えで行動する



育児の目標

共同体に所属できるようになること

家族・友人・学校・社会・国・人類

そのために

人々は仲間だ
私は能力がある

と子どもが思えるように子育てをすること

アドラーの願い

多民族・多言語・多宗教国家で憎しみあって暮らしていた。

やがて第一次世界大戦が起こってしまった。

二度と戦争が起こらないことをアドラーは願った。

そのためには

政治や制度を変えるのではなくて

人間を変えなければならない

そのためには

- 育児と学校教育を改革して
- 子どものころから
- 相互尊敬・相互信頼の横の関係を学び
- 陰性感情や暴力でない方法で問題を解決することを学ぶ
- そういう子どもが育って
- **新しい社会を作る**

